事例No.	2422
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人飛騨小坂200滝

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

滝の数日本一！「滝めぐり」で町おこし！

出典

平成26年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

岐阜県下呂市

特定非営利活動法人 飛騨小坂200滝

滝の数日本一！「滝めぐり」で町おこし！



龍門の滝（15m）。５万４千年前の御嶽山の噴火で流れ出た溶岩流が、永い年月をかけて水の力によってくり抜かれ、天然の石橋が完成。

事例の概要

「ＮＰＯ法人 飛騨小坂 200 滝」は、少子高齢化が進み、また、「日本一滝の多い町」として知られながらも年々観光客の減少が続いていた下呂市小坂町において、この状況に歯止めをかけ、この地域資源を生かしたまちづくりを目的として、平成 18 年に設立された。

設立以来、「滝めぐり 14 コース（76 滝）」を設定し観光客のガイドを行うと同時に、地域の魅力を後世に引き継ぐために市内の小・中・高校へ出向き、小坂の滝めぐりや地域資源の素晴らしさを紹介する活動を行ったり、市民を対象とした滝めぐり体験ツアーを行ったりするなど、精力的に活動している。

また、地域の人々と連携して、御嶽山麓に抱かれた豊かな自然と地元に古くから伝わる文化、伝統を訪れた方に体験していただく「小坂スタイル」というツアースタイルを提唱することで、周辺施設の利用者増にも寄与するなど、小坂地域のみならず、下呂市全体の地域活性化に寄与している。



NPO 法人 飛騨小坂 200 滝のみなさん

評価のポイント

岐阜県の旧小坂町は平成 16 年に近隣４町村と合併し、現在は下呂市の一部になっている。北に飛騨高山、南に下呂温泉という著名な観光地があり、目立った観光資源がない小坂地区では旅館の廃業が続いていた。

そこで地元有志が地域資源を生かそうと地元にある滝を現地調査し、大小 200 を超す滝があることを確認。「滝の数・日本一」を掲げて滝めぐりツアーとして 14 コースを設定し、コース整備やガイドを務めるＮＰＯ法人「飛騨小坂２００滝」を平成 18 年に設立した。岐阜県も平成 20 年に「岐阜の宝もの」の第１号に「小坂の滝めぐり」を選んだ。

それ以降、観光客が増加し、平成 19 年には１万人台だった入り込み客は平成 25 年には５万３千人に増えた。滝めぐりツアーの拠点となる「がんだて公園」には観光客の増加をきっかけに地元の食材を使った食堂が新規にオープンし、集客が伸び悩んでいた周辺の温泉施設などの利用客も増えている。近隣の旅館が「どぶろく特区」の認定を受けて自家製のどぶろくの提供に乗り出したり、滝めぐりとセットになった宿泊プランを企画したり、波及効果が広がっている。

この事例の最大の特徴は「眠っていた地域資源」を地域住民が自ら発掘した点にある。加えて、ＮＰＯと自治体、商工会などが積極的に連携しており、滝を目当てに訪れる観光客の増加が周辺の観光施設の集客増につながっている。ツアーのガイドは大半が元自治体ＯＢなどによるボランティアであるが、30 歳代の若手がＵターンしてきて専業で取り組むなど、今後のステップアップに向けた基盤もできつつある。観光資源という面でも、初心者から上級者まで楽しむことができる多様な滝めぐりコースを設定したことでリピーターが期待できる。

本事例は、こうした点が高く評価された。



小坂の滝めぐりに訪れたオーストラリアの観光客に滝めぐりの魅力を伝えるため、地元の高校の生徒と一緒に案内。



自分自身の手で雪歩きのための「わかんじき」を作り、冬ならではの神秘的な氷瀑に出会うツアー。



自然環境保全の取り組みとして「湿原の回復作業」を実施。この作業は学校の体験授業として大阪の修学旅行生を受け入れている。

DATA 岐阜県下呂市（げろし）

団体名●特定非営利活動法人　飛騨小坂200滝
所在地●〒509-3104　岐阜県下呂市小坂町小坂町769番地
連絡先●TEL：0576-62-2215　FAX：0576-62-2818
E-mail:hidaosaka200taki@ever.ocn.ne.jp　URL:http://www.osaka-taki.com/

【交通のご案内】（下呂市小坂町まで）

自動車●東海環状自動車道　富加関ＩＣから約1時間30分
中部縦貫自動車道　高山ＩＣから約40分
中央自動車道　中津川ＩＣから約1時間30分
国道41号　下呂温泉から約30分／高山市街地から約40分

鉄　道●高山本線特急ワイドビューひだを利用　名古屋から下呂まで約1時間40分／富山から高山まで約1時間35分
高山本線普通列車を利用　下呂から約25分／高山から約35分



▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
48,314	42,581	40,102	38,494	36,314

▶人口増減率（単位：%）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-24.8	-14.7	-9.4	-5.7

▶高齢者・若年者比率（H22 年）（単位：%）

高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
33.1	10.6